

スルフェンアミド系加硫促進剤について

(11)

前回¹⁾はスルフェンアミド系加硫促進剤 **ノクセラ-NS** を用いた場合の有効加硫方式のスコーチ、並びに加硫特性による効果と、**ノクセラ-NS**—**バルノック R**、**ノクセラ-NS**—**バルノック R**—**ノクセラ-TT** (チウラム系促進剤) の併用系、及び**ノクセラ-TT** 無イオウ系による各有効加硫方式の効果との比較を報告しました。

そこで、今回は耐熱老化性及び各種物理特性について **ノクセラ-NS** を用いた場合の有効加硫方式の効果と、**ノクセラ-NS**—**バルノック R** 等による各有効加硫方式の効果と比較するために、実験を行なったのでご紹介いたします。

JSR 型キュラストメーターを用いて応力緩和曲線を測定した結果を(図-1.)に示す。 **ノクセラ-NS** 量を増量(イオウ量を減少)するに伴って、 f_t/f_0 の減少率が低下する。また、 **ノクセラ-NS**—**バルノック R** 系に **ノクセラ-TT** を併用すると、 f_t/f_0 の減少率が低下する。 **ノクセラ-TT** 無イオウ系が最低の f_t/f_0 の減少率を示し、次いで **ノクセラ-NS**—**バルノック R**—**ノクセラ-TT** 系、**S (0.32)**—**ノクセラ-NS (7.14)** 系、**ノクセラ-NS**—**バルノック R** 系、**S (0.64)**—**ノクセラ-NS (3.57)** 系となっている。

熱老化試験(表-2)で示される耐熱老化性はキュラストメーターによる応力緩和で測定される f_t/f_0 の減少率とほぼ同一傾向を示している。このことから、キュラストメーターによる応力緩和で測定される f_t/f_0 の減少率は加硫ゴムの耐熱性を一応表わしていると考えられる。すなわちこの耐熱性は熱劣化に対する耐抗性をほぼ示していると思われます。

各種物理試験(表-3)の内、特に各加硫系による圧縮永久ヒズミは熱老化試験(表-2)で示される耐熱老化性とほぼ同一傾向で改良されている。屈曲キレツ成長では、**S (1.28)**—**ノクセラ-NS (1.79)** 系が著しく優れた傾向を示している。

以上で示される耐熱老化性及び圧縮永久ヒズミ、そして前回¹⁾の加硫特性は有効加硫方式の特色²⁾をよく表わしている。**ノクセラ-NS** 量の増量(イオウ量の減少)に伴う、また**ノクセラ-NS**—**バルノック R** 系に **ノクセラ-TT** を併用することによる耐熱老化性及び圧縮永

久ヒズミの向上は低イオウ架橋割合が増加する³⁾ためと考えられる。このことは**ノクセラ-TT** 無イオウ系で最高の耐熱老化性及び圧縮永久ヒズミが示されることから実証される。⁴⁾

引用文献

- 1) NOC 技術ノート No. 117
- 2) NOC 技術ノート No. 95
- 3) Boggs and Blake: I.E.C.I., 22, 748 (1930)
- 4) 大北忠男: ゴム協, 24, 77 (1951)

1. 配合

R.S.S. #1	100
亜鉛華	5
ステアリン酸	3
HAF ブラック	50
プロセスオイル#1	3
ノクラック 810-NA	2
試料	(表-1)

2. 実験結果

2-1 キュラストメーターによる応力緩和試験

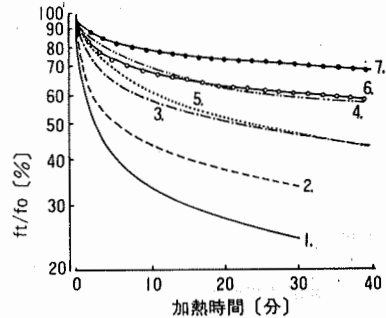


図-1. JSRキュラストメーターによる応力緩和曲線

	イオウ	ノクセラ-NS	バルノック R	ノクセラ-TT
1. ———	2.56	0.89		
2. - - - -	1.28	1.79		
3. ······	0.64	3.57		
4. - - - -	0.32	7.14		
5. ······		2.	2	
6. ———		2.	2	
7. ———				1

(表-1.と同一)

実験条件; 試験機: JSR型キュラストメーター、ディスク: #1(2mm)、オシレーティング角度: ±3°、試験温度: 160°C

実験方法: ディスクに試料をそう入して試験機を作動させ、トルク値が最大になった時点(この時のディスクオシレーティング角は3°)でディスク作動モーターを停止させ、トルク値の低下を測定する。

f_t/f_0 = 各時間でのトルク値/トルク最大値×100 [%]

2-2 試料および熱老化試験

表-1 試料

加硫剤 加硫促進剤	試料 No.						
	1	2	3	4	5	6	7
イ オ ウ	2.56	1.28	0.64	0.32			
ノクセラーNS	0.89	1.79	3.57	7.14	2	2	
バルノックR					2	2	
ノクセラーTT						1	3

熱老化試験 実験条件：JIS K 6301-69 に準拠。試験機：試験管加熱老化試験機
 老化温度：100℃，試験片の形状：JIS ダンベル状3号形。

表-2 老化引張特性

	加硫時間(分) 〔プレス加硫140℃〕	〔老化時間〕 加硫時間(分) 〔140℃プレス加硫〕													
		19		12		20		65		40		18		11	
		〔kg/cm〕 変化率%													
T_B	0(時間)	280		283		270		235		266		243		229	
	24	254	-9	269	-5	252	-7	229	-2	261	-2	240	-3	225	-2
	48	148	-47	234	-17	240	-11	224	-5	259	-3	222	-10	216	-6
	96	143	-49	210	-26	226	-16	220	-6	242	-10	214	-14	215	-6
	168	85	-70	172	-39	191	-29	184	-22	208	-22	186	-25	197	-14
E_B	0	450		520		500		490		520		420		580	
	24	340	-24	390	-25	450	-10	490 ± 0	490	-6	320	-24	520	-10	
	48	200	-56	300	-42	400	-20	490 ± 0	460	-11	290	-31	480	-17	
	96	190	-58	270	-48	370	-26	470	-4	440	-15	280	-33	440	-24
	168	100	-78	240	-54	320	-36	420	-14	400	-23	260	-38	440	-24
M_{100}	0	36		25		25		20		22		30		15	
	24	55	+53	44	+76	31	+24	22	+10	26	+18	46	+53	20	+33
	48	57	+58	49	+96	33	+32	24	+20	30	+36	52	+73	23	+53
	96	61	+69	57	+128	38	+52	24	+20	32	+45	53	+77	26	+73
	168	58	+61	61	+144	39	+56	28	+40	32	+45	50	+67	26	+73
M_{300}	0	184		149		146		121		133		164		88	
	24	230	+25	211	+42	164	+12	122	+1	153	+15	216	+32	116	+31
	48			225	+51	172	+18	127	+5	161	+21			130	+48
	96					181	+24	124	+2	166	+25			140	+59
	168					177	+21	125	+3	148	+11			127	+44
H_s	0	70		63		64		62		62		67		57	
	24	73	+3	72	+9	67	+3	65	+3	65	+3	71	+4	61	+4
	48	77	+7	72	+9	68	+4	65	+3	66	+4	73	+6	64	+7
	96	78	+8	74	+11	70	+6	66	+4	67	+5	74	+7	66	+9
	168	76	+6	76	+13	74	+10	70	+8	69	+7	77	+10	67	+10

2-3 各種物理試験

実験条件：(1)~(4) JIS K 6301-69 に準拠。(5) ASTM D 813-59 に準拠。

表-3 各種物理特性

試料 No.	1	2	3	4	5	6	7
加硫時間〔分〕(140℃プレス加硫)	19	12	20	65	40	18	11
(1) 永久伸び〔%〕	5	5	4	3	4	3	3
(2) 引裂強サ	A型	128	117	124	80	99	70
	B型	77	133	74	56	65	45
加硫時間〔分〕(140℃プレス加硫)	24	17	25	70	45	23	16
(3) 反バツ弾性〔%〕	56	54	51	46	47	50	46
(4) 圧縮 久ヒズミ〔%〕, 25%圧縮, 100℃ ×70時間熱処理	74	76	68	50	63	55	40
(5) 屈曲キレツ成長(×10 ⁴)〔mm〕	1	9.3	3.6	3.9	4.2	3.9	4.4
	3	17.6	4.8	6.6	7.5	6.1	7.3
	5	22.8	6.1	8.8	10.6	8.7	10.4
	7	切斷	7.6	11.5	15.1	13.9	13.9

大内新興化学工業株式会社